

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.158

2013/01/17

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

ワンステッフアップの年に・・・



今年も保全活動の安全と会員の健康を祈願(13/01/01)



御神酒の奉納

今年も元旦の10時14名の会員が「やまかど・森の楽舎」に集まりました。クリスマス寒波・大晦日寒波と言われながらも「守護岩」で5cmの積雪。例年のことを考えると拍子抜けの「守護岩詣」となりました。守護岩到着後会員が縛ってくれた注連縄を奉納した後、お飾り・御神酒をお供えし、そのおさがりで乾杯しているのが上の写真です。これまで12年間、主に保護を目的に活動してきましたが、保護と同時に「育林」という視点も加えた活動が出来ればと考えています。ともすると人工林を邪魔者扱いにしがちですが、想いは時代と共に変容することがあります。しかし「山門水源の森」の周辺部のヒノキ林は、当時の人々の想いが込められているはず。これらを育てるという視点も重要です。今年も会員のみなさんの一層のご協力をお願いいたします。

センサーカメラがとらえる

2010年復元北部湿原でニホンカモシカの死体が見つかり、センサーカメラで遺体を喰いに来る動物を追跡した。その結果は橋本会員によって「報告集」にまとめられています。12月7日北部湿原の沢で死んでいる牝鹿が見つかり、遺体を湿原に引き上げました。今回も森林キーパーの富岡氏がセンサーカメラで追跡しています。結果については、「報告集 Vol.7」にまとめてもらうことになっていますが、なかなか興味深いものが撮影されています。肉を引き裂いて喰うクマタカ・新雪を掘って肉を探し出すイノシシ・次から次へとやってくるタヌキの集団やテンなど。昼夜・天候を問わず自然界のドラマがとらえられています。獣道にカメラをセットしてもなかなかとらえられないのですが、さすが餌の力です。冬場の方が来訪種・回数も多いようです。



クマタカ(12/12/23 7:38)



イノシシ(13/01/03 17:49)



沢で死んでいたシカの引き上げ(12/12/07)



テン(左)とタヌキ(12/12/30 2:29)

冬の観察は新雪時が最適



ブナ林の新雪(13/01/11)



新雪に鮮やかなノウサギの足跡(13/01/11)

好天の新雪の森は、景色としても鮮やかさが増すが、観察者にとっては前日までの森の記録を一旦ご破算にしてくれることが有り難い。雪質が粉雪であると更に有り難い。欲を言えばこの新雪が少ないと更にいい。どんな動物が何を喰い・どんな行動をしたかが読み取れる。もっとも採餌については、足跡だけでなく葉の喰い痕



エゾズリハを喰ったシカの足跡(13/01/11)



ヒサカキに近づいたが喰わなかったシカの足跡(13/01/11)



ササを喰ったシカシカの足跡(13/01/11)



水路を飛び越えるのを躊躇したノウサギノ足跡(13/01/12)



ササを喰ったノウサギノ足跡(13/01/12)



テン(左)とタヌキの足跡(13/01/12)

の新鮮さも確認しておく必要がある。ササなどは、以前別の動物の食痕が残っているので足跡の主と採餌の主とが異なることがある。

冬場も保全作業続く

森の保全作業は、これまで二次林を対象にしたものが多かったが、今冬は育林も考えた植林地の枝打ちを連日森林キーパーを中心に行っています。1987年前後に植林されたヒノキは、一部が既に枝打ちや間伐が行われていますが広い範囲が放置状態になっています。先人が汗して植林された林を「美林」とまでは行かないまでも、将来「材」として利用できる状態に保っておきたいものです。シカによる食害木も多く、間伐も来年度は考える必要があります。他方沢の砂防作業も森林キーパーが中心になって以前は考えられなかった程の堰堤が続々仕上がっています。もっとも耐久性に課題を残しますが、湿原には好結果をもたらすはずです。



枝打ち進むヒノキ林(12/12/21)



堅牢な堰堤造り作業続く(13/01/11)